

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670500224
法人名	医療法人 芳清会
事業所名	グループホーム さくらの丘
訪問調査日	平成20年12月15日
評価確定日	平成21年2月3日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月28日

[評価実施概要]

事業所番号	4670500224		
法人名	医療法人 芳清会		
事業所名	グループホーム さくらの丘		
所在地	鹿児島県いちき串木野市上名字梨堀8974番地 (電 話) 0996-21-2777		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成20年12月15日	評価確定日	平成21年2月3日

[情報提供票より] (20年 10月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 10月 21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 14人, 非常勤 3人, 常勤換算 15.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	30,000 円	その他の経費 (月額)	10,000円
敷 金	無		(9,000+1,000)
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (10,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食 200 円	昼食 350 円	
	夕食 350 円	おやつ 円	
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要 (10月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名
要介護3	7 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 84 歳	最低 76 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人芳清会 串木野内科循環器科・丸田歯科クリニック
---------	-----------------------------

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

自然豊かな小高い丘にひらかれた集落の中に開設されているホームである。運営者の思い (笑顔・自分らしい生活・尊厳と自立) を受けとめて管理者・職員は地域の中で安心して暮らしていけるケアを目指している。職員にとって利用者は家族の一員であるという思いをひとつにして、居室に一人にさせない (状態観察のためにも) 工夫をしている。その取り組みは利用者同士の意思疎通や互いを思いやる行動に表れて自立支援と信頼関係を構築している。また地域住民と畑作業をしたり、季節行事参加に関わることは利用者の自信に繋がっている。職員の真摯な取り組みと、医療体制も母体が病院であり、医療・福祉の連携も充実しており家族や地域の人々との信頼関係が深まりつつある。地域密着型サービスの充実が期待されるホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4) 職員を育てる取り組みは法人内で行われる年間計画を利用し常にミーティング時に勉強会の時間を設けている。外部研修に年2回参加して復命研修を行い共有に努め改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 評価の意義を理解している。各ユニット毎に評価に取り組み、指摘事項を再検討している。「外出の機会を多くするための工夫を。」などの意見が出されて具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 会議は定期的開催されて、参加者より意見やアドバイスをもらい改善に向けて具体的な取り組みはなされているが家族代表の参加の事例がないため家族代表や幅広い立場の人達に積極的に参加してもらえよう働きかけていくことが望まれる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 窓口を設けているとともに、面会時に職員は家族などと話す機会を作り、意見を出しやすい雰囲気づくりに心がけており、出された要望などは話し合い運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 地域の行事 (山祭り・夏祭り) や敬老会参加への呼びかけがある。また四季便りを配布しホームの啓発に努めている。地元の方が野菜など持って立ち寄ってくれたり、ホーム内外の草取りの奉仕作業をしてくれるなど交流は行われている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型のサービスの意義とその人らしく暮らせる支援を職員全員で確認し、家族や地域の人たちとの絆を重視した理念を開設当初から作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をパンフレットやフロア、事務所内に掲示している。管理者は毎朝理念を確認して、共有に努め日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(山祭り、夏祭り)や敬老会参加への招待がある。また四季便りを配布して、ホームの啓発に努めている。地元の方が野菜などを持って立ち寄ってくれたり、ホーム内外の草刈の奉仕作業をしてくれるなど交流は行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解している。各ユニット毎に自己評価に取り組み、指摘事項を再検討している。「外出の機会を多くするための工夫を。」などの意見が出されて具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に開催されて、参加者より意見やアドバイスをもらい、改善に向けて具体的な取り組みはなされているが家族代表の参加の事例がない。	○	会議に家族代表や幅広い立場の人たちに積極的に参加してもらえよう働きかけていくことが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	四季便りを持参している。運営やサービスについて、相談しながら協力関係を構築している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの四季便りや月次報告、来訪時に運営推進会議・職員異動・心身の状況や暮らしぶりを報告している。金銭管理は出納帳・領収書で報告しサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口を設けている。面会時に職員は家族などと話す機会を作り意見を出しやすい雰囲気づくりに心がけており、出された要望などは話し合い運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係が継続できるケアを心がけているがやむをえない異動の場合には職員体制を工夫し、ダメージを受けないように十分な説明と配慮をして不安がないように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修(年2回)に参加している。復命研修もされて、共有に努めている。また内部研修はミーティング時に議題を設けて勉強会としている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市・地区グループホーム協議会の勉強会に参加したり、見学交流など情報交換の場を設けている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院や自宅に行き本人と面談し、住環境を把握して見学や食事を一緒にしてもらい、不安なく入居できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一人ひとりの得意とすること(ゴミ箱作り・アロマアレンジ・短歌の代筆)をしてもらう中で見事な製品の仕上がりや短歌に驚いたり、感動しながら日々をともにしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で心身の状況や言動、表情で察するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の心身の状況や本人に関わる関係者の要望をもとにカンファレンスを行い本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要の関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(6ヵ月)な見直しをしている。利用者の状態変化の際は都度カンファレンスや評価を行い都度の見直しと入退院後の見直しに活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族などの要望に応じて自宅訪問、お墓参り、特別な外出など必要な支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を継続できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制があり、重度化や終末期に対して指針が作られて、職員も共有できている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。職員採用時の誓約書も取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、レクリエーションなどその人のペースを大切にしながら本人の希望や状況にそえるように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ、食材を採りにいく(菜園)、下膳、茶碗洗い、晩酌などできることを職員と一緒にしながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決められているが一人ひとりの希望に応じた入浴の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の作業(掃除・食器洗い・洗濯物たたみなど)や新聞・本の購読、短歌、大正琴、紙皿アート、習字など一人ひとりの得意なこと、好きなことに力を発揮してもらっている。また外食や理美容院など外出に心がけて気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩、ドライブ、園庭での日光浴、花見など出かけて閉じこもらない支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間だけの施錠であり、居間は職員の見守りで鍵をかけずに自由な暮らしが出来るように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回地域の協力者参加のもと防災訓練をしている、また自主訓練は年5～6回行っており夜間想定訓練も計画されている。災害時の備蓄もしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録して一人ひとりの状態に応じた確保が出来るようにしている。身体状況に合わせてキザミ食やトロミ食など取り入れている。栄養バランスは栄養士のアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間は天井が高く清潔で温度や換気も良く、木のぬくもりが感じられ季節行事の工作や生け花に囲まれて利用者はゆったりと過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、タンス、寝具、仏壇、椅子、加湿器など使い慣れた物品が持ち込まれ安心して生活できる居室作りである。		